

新型コロナとぼく

佐々木 護助

「三月二日から学校、休みだって。」

お母さんが、テレビニュースを見ながら、びっくりするように声をあげた。

「えっ、卒業式は！？。」

三月に卒業式を控えているお兄ちゃんが、慌てるように返答した。テレビニュースのテロップには、「全国の小中学校など“臨時休校要請”。」

という文字が映し出されていた。

ニュース通り、三月から五月末までの二ヶ月間、学校が臨時休校になった。はじめの一週間は、ぼくの大好きなテレビゲームをすることができるので、ぼくは、「長い学校休みっていいなあ。」と思っていた。

しかし、二週間、三週間と、休みが長くなっていくうちに、ぼくは、「学校に行って、早く友達と遊びたいなあ。」と思うようになってきた。お兄ちゃんも、卒業式ができるのかどうか、分からない状況だったけれど、なんとか規模縮小の卒業式に参加することができた。全国の他の学校では、卒業式が中止になった所もあったそうなので、ぼくは、「お兄ちゃんは、卒業式ができただけでも良かったなあ。」と思った。

六月までの間、ぼくは、学校に数回、臨時登校した。先生から、宿題を与えられ、自宅で学習する日々だった。唯一、ぼくの息抜きになっていたのは、家族でボードゲーム、オセロ、トランプなどをすることだった。酪農家のお父さんの手伝いをしに牛舎へ行くこともぼくの日課になっていた。

これまでぼくは、コロナウイルスの感染拡大により、普段とは違う生活をしてきたし、これから先も、先行きがわからない状況だけど、この逆境をなんとか乗り越えていきたい。

新型コロナウイルスとわたし

永塚 雅

今年から、「新型コロナウイルス」という病気が流行し始め、多くの学校は休校になりました。私の学校では、三月からの三ヶ月間学校が休校になりました。

三ヶ月も休みがあって、家でゆっくりできたのはよかったけれど、いちばんつらかったのは、友達と会えなかったことです。毎日家にいるとストレスもたまるし、勉強のことも心配でした。家では六年生の勉強をしていたけれど、自分で教科書を見ただけでは分からないことがたくさんありました。そして、六月からやっと学校が始まりました。いつもとちがう学校生活にとまどいましたが、友達と話せたのは、いちばんうれしかったです。勉強も、みんなですると、一人一人の考えを教え合ったりできるので、分かりやすかったです。

わたしが新型コロナウイルスでいちばんこまったことは「六年生を送る会」ができなかったことです。新型コロナウイルスで学校行事もいつもとちがう形であるかもしれないけれど、宮沢小学校最後の六年生なので、協力して、最高の思い出にしたいです。